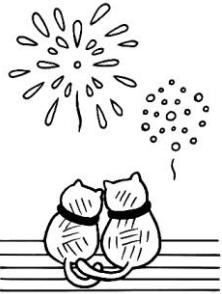


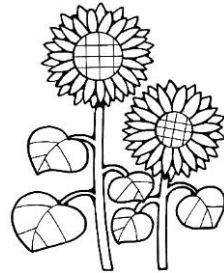
第63回青少年読書感想文全国コンクール



感想文対策特別号



1・2年生には、夏休みの宿題に感想文がありますが、インターネットからの引用がないように、自分の言葉で感想文を書いてくださいね。この号は感想文対策として、みなさんに役立つように作りました。せっかくの取り組みなので実りあるものにしてほしいと思います。本選び、読み方のコツ、書き起こし方、原稿用紙の使い方。。。などなど、ぜひご一読を！



～まずは本選びから～

★自分に合った本を選ぼう★

自分の年齢や好みに合う本を選ぶとぐっと書きやすくなります。友達、家族、先生など親しい人に聞いてみるのもいいかも。図書館には、『高校生におすすめの本』というリストもあるので参考にするといいでしょう。

図書館や書店で直接本を見ながら選ぶ時は、本の帯や目次、まえがきやあとがきを読んでみるのをおすすめします。

ルポルタージュや手記・ノンフィクションなど、実際の出来事をまとめた本は自分の考えと比べることができます。小説だけでなくいろいろなジャンルの本にチャレンジしてみるのもいいですね。

右側には今年度の課題図書を掲載します。



フラダン 古内 一絵 // 著

女子率100パーセントのフラダンス愛好会に集められた4人の男子高生。そう、『フラダン』とは“フラ” “ダンス”の略。その目的は男女混合によるフラガールズ甲子園出場だった！震災から5年後の福島を舞台に描くとびきりの笑顔と涙の青春ストーリー。



ストロベリーライフ 萩原 浩 // 著

富士山麓の苺農家を舞台に新たな人生を模索する家族の物語。甘い苺づくりに夢をかける“甘くな～い”お仕事小説。



犬が来る病院 大塚 敦子 // 著 命に向き合う子どもたちが教えてくれたこと

日本で初めて小児病棟にセラピー犬の訪問を受け入れた医療機関。入院中であっても豊かな時間を過ごし、困難を乗り越えていけるように、医師や看護師、保育士、心理士、チャプレン(病院で働く牧師)等で行う取り組みを、4人の子どもたちの生死を通して描いた感動の記録。

～さあ本を読もう～

読む本が決まったら読み進めてみよう。気に入った場面や印象に残った文章には印をします。図書館の本など、借りた本には線をひけないので、付箋をしったり書き出ししたりしておきましょう。喜怒哀楽を感じた場面や誰かにも伝えたいと思ったこと、共感できたことなど、どんどんマークしていこう。何度も読んで自分の考えをまとめられるとよいですが、なかなか時間がとれないと思うので読むと同時にこの作業を取り入れておくことをおすすめします。また、知らない漢字や曖昧に覚えている言葉は調べて把握しておこう。思い込みで覚えていたりして明確に答えられないことがあるものです。

～書き始める前に～



★原稿用紙の使い方★

この機会に書き出しのルールや、記号の使い方など覚えておこう。

小さな「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」は1マスに1つ、マス目の右側に書きます。

会話文や引用文は「」(かぎかっこ)を使って書きます。

本文の書き始めや、改行して新しい段落にする場合は、1マスあけて書きます。

題名は、上を2～3マスあけて書き始めます。

句読点は1マスに1つ、マス目の右上に書きます。

名前(姓と名の間に1マス、名の下に1マスあけます)。(ダッシュ)や……(三点リーダー)は2マス分を使って書きます。

句読点と「」(かぎかっこ)は1マスに書きます。

★人の文章を使う場合★

良い文章を読んで参考にすることはよいのですが、それを自分が書いたようにすることはゆるされません。絶対にやってはいけないことです。引用する文章には「」(かぎかっこ)をつけて引用したことがわかるようにしましょう。そして自分の意見も必ず付け加えることを忘れずに！



～いよいよ書き始め～

★書き出しに工夫を★

最初に何を書くかで結構悩みます。でも、それさえ決まれば意外とすらすら書けるものです。書き出しのコツをまとめてみました。

- ① 読んだ感想から書く
- ② その本を選んだきっかけから書く
- ③ 自分も同じような経験をしたことがあったら、そのことから書く
- ④ 会話から書き始める
- ⑤ 疑問に思ったことから書く
- ⑥ 一番印象に残った場面の文章を使って書く

★文章の設計図を考える★

どのような流れで文章を組み立てるのか、メモしたりマークしたことをもとに紙に起・承・転・結を書き出してみよう。あなたの感想文の骨組み作りです。骨組みが書き出せたら、自分の言葉で具体的な表現などを詳しく付け加えていきます。

特に結びの部分は書き出しと同じように読む人に強く印象づける部分です。無理に立派なことを書こうとせず、ごく自然に自分の思ったことを自分の言葉で表現してみてください。

★題名のつけ方★

多いのは「〇〇を読んで」というもの。それでもかまわないのですが、余力があれば、個性的な題名を考えてみましょう。題名は自分の書いた感想文を一言で表すものです。題名から伝わることもあるので、メモしたりマークしたことを眺めながら考えてみてください。

～最後に～

お疲れ様でした。でも、ここで終了するのではなく、書いたら時間をおいて、もう一度読み返してみよう。ポイントは上手に書けたかではなく、言いたいことがうまく伝わる文章になっているかです。文を入れ替えたり、言葉を置き換えたりして自分の思いがよりよく伝わる表現を探してみよう。この一手間でぐっと伝わりやすい文章になるはず。感想文に限らずどんなときでも、書いてから推敲するといいですね。